

メッセージアウトラインルカ 24:1~11、I コリント 15:12~22

「イエス・キリストの死よりの復活」

イエスはゲッセマネの園で捕らえられ、ユダヤ人たちの不当な裁判によって十字架につけられ、アリマタヤのヨセフにより岩をくりぬいて造った墓に葬られた。墓は大きな石でふたをされた。→マタイ 27:57~60

[1]「週の初めの日」とは安息日の次の日曜日のこと。朝早くまだ暗いうちに、イエスにつき従っていた女性たちがイエスのからだに香料を塗ろうとして墓にやって来た。これはイエスを慕う深い愛情、同情、尊敬の思いからの行動。それに比べて男の弟子たちは誰も来ていない。彼女たちは「マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤとほかの女たち」(10)であった。マグダラのマリヤ…イエスによって七つの悪霊を追い出していただいた。→ルカ 8:2 ヨハンナ…ヘロデ(アンテパス)王の執事クーザの妻→ルカ 8:3 ヤコブの母マリヤ…十二弟子の一人アルパヨの子ヤコブの母と思われる。→マタイ 10:3 十二弟子の中にもう一人ヤコブがいるが彼は同じく弟子のヨハネの兄であり彼らはゼベダイの子と呼ばれている。→マタイ 10:2 そして彼らの母はサロメという名前であり、やはりこの時マグダラのマリヤと共に墓に来ていた。→マタイ 27:56、マルコ 16:1 (ルカの福音書では 10 節の「ほかの女たち」の中に彼女も含まれていたと思われる)

[2~3]彼女たちが見ると、ふたをしてあった大きな石が墓からわきまのころがしてあった。入って見ると、主イエスのからだはなかった。マタイの福音書によると、この時、大きな石は天から降りて来た御使いによってころがされ、御使いがその上にすわったので大きな地震が起こり、墓の番をしていたローマの番兵たちは御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がった。→マタイ 28:2~4 この御使いはふたりであった。→ルカ 24:4

[4~8]御使いはマリヤたちにイエスが前から言っておられたように(マタイ 16:21,17:22-23,20:18-19)死より復活されたということを告げた。それで彼女たちはイエスのみことばを思い出した。

[9~11]彼女たちは墓から戻って、十一弟子(イスカリヤのユダはイエスを裏切り自死)とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告したが、彼らにはこの話しがたわごとと思われたので信用しなかった。

三年もの間、イエスと寝食を共にし、多くのことを教えられ、力あるわざを見てきたのにイエスの復活が信じられない。これが彼らの現実の姿。それゆえイエスの復活を聞いて信じられるということは全くの神の恵みなのである。

イエス・キリストの死よりの復活は福音の根底をなすものである。このイエスの復活に関連して→I コリント 15:12~22 を見たい。コリント教会はパウロの福音伝道によって立てられた教会であるが、そこにはギリシヤ哲学の影響からか「死者の復活はない」と主張する者がいた。

もしもキリストが死よりよみがえらなかつたならばどうなるのか。
[13~14]①私たちの宣べ伝える福音は実質のない単なる気休めということになる。

[15~17]②私たちの信仰はむなしく、私たちは今もなお罪の中にあることになる。

罪から来る報酬は死。→ローマ 6:23

[18]③当然、キリストを信じるクリスチャンも死に勝てない。

キリストにあって眠った者(死んだ者)は滅んでしまったことになる。

[19]④クリスチャンはすべての人の中で一番哀れな者となる。

[20]しかし、キリストはたしかに眠った者の初穂として死者の中からよみがえられたのである。イエスはかつて言われた。→「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです」ヨハネ 10:18 そしてイエスが眠った者の初穂として死者の中からよみがえられたということは、イエスを信じて死んでいった者たちもまた彼のように死からよみがえるという希望があるということである。
[21~22]死はアダムによって入ってきた。しかし、死よりの復活はキリストによって与えられる。ここに大いなる希望がある。

イースターは私たちの主イエス・キリストの死よりの復活を記念し祝う日である。主イエスは私たちの罪の贖いを十字架の死によって成し遂げ、ご自身が罪の呪いである死を打ち破って復活されたことにより、ご自身が死より強いお方であり、真の救い主であることを弟子たちに示された。私たちもこの日を心から感謝し、お祝いしよう。